

掩蔽課の新設

去る12月20日の二大遊星の珍しい掩蔽は圖らずも多くの人々の注意を呼び、我が日本の津々浦々の到る所で此の珍象は觀察された。同時に又、各地の會員たちの中で、此の掩蔽の精密時刻を觀測された人、或は寫眞を撮影された人も多かつた。——かうした珍しい現象を吾々は觀たことを永く記念し、此れの學術的重要性を益々深く認識するため、ここに本會觀測部では新たに「掩蔽課」を設け、花山天文臺と連絡をとりつつ、可なり系統的に、掩蔽を觀察して行きたいと思ふ。

掩蔽は、一般には、月が星を其の背後に掩ひかくす現象であつて、日食や月蝕と類似するものであるが、7—8センチの望遠鏡さへ持つておれば、毎夜平均一つ以上見えるものである。掩蔽は稀には肉眼で見えることもあるが、多くは小形の望遠鏡が必要である。又、掩蔽の始め終りの時刻を正確に觀測するため、正しい時計を持つ必要がある。今後、號を追つて、掩蔽の觀測に關する指導記事を連載する筈であるが、とりあへず、今までに發表されたもので、参考となるものは下の如くである。

天界	第49號	上田穰 氏	「掩蔽解説」
〃	第54號	同 氏	「掩蔽を算出する描畫法」
〃	第81號	山本一清氏	「金星による掩蔽」
〃	第83號	同 氏	「金星による掩蔽觀測」
〃	第92號	同 氏	「火星の掩蔽」
其他の小記事	天界 第1號	第13頁	
	〃 第54號	第237頁	

觀 測	天界	第29號	第158頁	山本氏金星
	〃	第56號	第233頁	上田氏等金星
	〃	第83號	第 88頁	山本氏金星による
	〃	第92號	第 20頁	山本氏等火星

掩蔽の豫報

天界	第48號	第 5 頁 (1925年一月)	〃	第53號	第201頁 (〃 六月)
〃	第49號	第 53頁 (〃 二月)	〃	第54號	第247頁 (〃 七月)
〃	第50號	第 90頁 (〃 三月)	〃	第55號	第299頁 (〃 八月)
〃	第51號	第131頁 (〃 四月)	〃	第56號	第347頁 (〃 九月)
〃	第52號	第164頁 (〃 五月)	〃	第57號	第395頁 (〃 十月)

天界 第58號 第443頁 (ﾀ十一月)	ゝ 第67號 第443頁 (ﾀ 九月)
ゝ 第59號 第487頁 (ﾀ十二月)	ゝ 第67號 第435頁 (ﾀ 八月)
ゝ 第60號 第 47頁 (1926年一月)	ゝ 第68號 第495頁 (ﾀ 十月)
ゝ 第61號 第 97頁 (ﾀ 二月)	ゝ 第69號 第547頁 (ﾀ十一月)
ゝ 第62號 第153頁 (ﾀ 三月)	ゝ 第70號 第593頁 (ﾀ十二月)
ゝ 第63號 第205頁 (ﾀ 四月)	ゝ 第93號 第74頁(火星が恒星を)
ゝ 第64號 第261頁 (ﾀ 五月)	ゝ 第99號 第340頁 (遊星の)
ゝ 第65號 第317頁 (ﾀ 六月)	備考 1927年以後は天文年鑑にあり
ゝ 第66號 第371頁 (ﾀ 七月)	

掩蔽は、其の觀測其のものが興味深いばかりでなく、此の觀測は、

- 1) 月や其の他の天體の位置を精密に決定する事
- 2) 土地の經度の決定に役立つ
- 3) 地球の自轉問題等に関する資料として重要である

等々の、種々な見地から學的にも重んぜられ、英米獨露あたりではアマチュア天文家の間にも大に之れの觀測が獎勵されてゐる。

觀測用の器械としては

- A. 5糎以上の望遠鏡 B. 相當な標準時計 C. ストップフラツチ

等が必要である。

尙ほ、會員たちに掩蔽を觀測して頂くについては、今後、下の如き諸問題に對し天界誌上に解説をする豫定であるが、會員各位としても熱心に御研究を望む。

- (1) 望遠鏡の選擇につき
- (2) 時計の選擇につき
- (3) 時計の使用方法
- (4) 掩蔽の觀測法
- (5) 掩蔽の計算法

時計の研究については、下の記事を御一讀願ひたい。

- 天界 第134號 第211頁 宮島善一郎氏 〔常用時計の精密度〕
 〃 第152號 第 46頁 押田 勇雄氏 〔小さな時計の精度〕

尙ほ、本會は掩蔽を解測せられる會員のため、花山天文臺に依頼して、時計の檢定を無料でやつて貰ふことにしたから、遠慮なく申越されたい。(時計の往復運送費は所有者の自辨とする。)

掩蔽課の幹部は下の如し

- 掩蔽課長 高城武夫氏
 〃 幹事 太田量平氏